

白石踊後継者育成事業 白石踊会笠岡支部 今月の活動（令和7年11月～12月）

令和7年11月～12月の白石踊に関わる高校生の活動について報告します。

1. ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト 活動発表会

英数学館中・高等学校は、世界的な教育ネットワーク「ユネスコスクール」のSDGs活動を支援するプロジェクトに採択され、今年度は白石踊継承活動について助成を受けました。先日、全国の採択校が集まる発表会に参加した英数学館高校生2名は、他校との交流を通じ、持続可能な未来を作る一員として、学びを深める貴重な機会となったそうです。2名に感想を述べてもらいました。

私たちは今回、「2025年度ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト」活動発表会にて、以前訪れた白石島での体験などを発表しました。小学生の皆さんたちと踊りと一緒に楽しんだことは地域の文化を共有できた貴重な時間だったと改めて感じました。この学びを他県の学校の人たちに伝えることができ、白石島の魅力を知ってもらえたことがとても嬉しかったです。

白石島の文化や魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいので、今後も白石島のことを広めたいと思いました。また、他校の発表を聞くことで、新しい視点や考え方にも触れることができ、自分自身の学びも深まりました。今回の経験を今後の活動にも活かしていきたいです。

(文章：小野朱里奈)

今回、2025年度ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクトとして、白石島での活動について発表しました。周りの発表はどれも分かりやすく、話し方や内容が工夫されていて、とてもすごいと感じました。そのような中で自分たちも発表できたことは、緊張しましたが、とても良い経験になりました。

発表の準備や本番を通して、白石島が抱える少子高齢化や過疎化、伝統文化である白石踊の継承の難しさについて、改めて考えることができました。また、小学生との交流活動や空き家再生ボランティアに参加したこと、若い世代が地域に関わることの大切さを実感しました。今回の発表をきっかけに、SDGs11「住み続けられるまちづくり」への理解が深まり、これからも地域や社会のことに目を向けて行動していきたいと思いました。

(文章：小田百花)



2. 白石島訪問 「白石踊講習会と空き家片付け」

2025年11月12日に英数学館高校生約30人が白石島を訪れ、白石公民館で白石踊を習いました。9月にも英数学館高校生が同様の活動をしましたが、今回は別のメンバーも多く加わっています。午後は空き家の片付けもボランティア参加しました。当日の活動報告が寄せられましたので、ご紹介します



白石踊は約800年前から受け継がれている踊りで、前回に引き続き今回も講習していただきました。講師の方々はご年配の方が多かったが皆さんとてもしなやかな動きをされていて美しかったです。白石踊を踊るにあたって最後の手を合わせるときに音を立てないことを指導されました。理由は源平合戦の戦死者を弔うためだからだそうです。

今回が2回目でしたが、踊りが少し難しかったです。覚えやすい動作ばかりでも、前後の人と動きを合わしたり足の向きなどを揃えたりすることに苦労しました。

午後からは空き家の片付けをしました。それ違う地域の方々が皆さん笑顔で嬉しくなりました。空き家は前回の空き家の作業よりも大変でしたが、ほこりと闘いながら楽しく作業できました。

港に戻る前に山にも登ったところ、紅葉が見頃で、山全体が柔らかい色に包まれており、とても印象的でした。自然の中を歩く時間は心が落ち着き、写真では收まりきらない美しさを体験できました。良いリフレッシュとなりました。

(文章：影山葵凜)

まず、白石踊は、岡山県笠岡市の白石島に昔から伝わる盆踊りで、静かでゆったりした動きが特徴です。みんなで輪になり踊るのですが、お盆に先祖を供養するために続いてきた、落ち着いた雰囲気の伝統行事です。

白石公民館で踊ってみて思ったことは、覚えるのは意外と簡単だったけど、同じリズムでずっと踊るので結構大変で島の人たちは祭りのときに一晩中踊ると言っていたのですごいなと思いました。踊りに声もつけて踊るので迫力もあってかっこよかったです。教えてくれた島の人たちは、とても丁寧に優しく動きなどもつけて、「こんな風に踊るんだよ」などアドバイスをしてくれてとても助かりました。

公民館から古民家まで歩いた道は、険しい道や伝統的な家屋もあって歴史を感じることができよかったです。古民家の片付けをして少しでも白石島に貢献することができたとすれば良かったと思います。

白石島の課題として思ったことは、過疎化で白石踊の後継者不足、交通アクセスの不便などの課題があるのではないかと思いました。今回の体験を通して、白石踊という伝統文化に触れたり、島の現状を知ることができたりしたことが貴重な体験だと思います。これからは、自分たちが白石踊を広めていけるようにしたいです。

(文章：益本隆誠)

僕たちは学校の探究活動で白石踊を習うために白石島に行きました。

白石踊は、太鼓の一定のリズムに合わせ、ゆったりとした動きで輪になって踊る伝統芸能でした。派手な振り付けではなく、一つひとつの所作に意味が込められているようで、古くから島の人々に受け継がれてきた踊りで、見ていると簡単そうに見えたが、実際に踊ってみると、足の運びや手の動きを合わせるのが意外と難しかったです。しかし、リズムに合わせて体を動かしていくうちに心が落ち着き、最後は不思議と一体感と心地よさを感じました。

踊りが終わって公民館から古民家に向かう道中では、海の気配や島特有の静けさを感じられる心地よい道でした。細い坂道を抜け、時折見える海の青さがとても印象的でした。古民家に到着して、片づけを始めると想像していたよりも大変で、長年そのままになっていた物も多く、慎重に仕分けをしながら進めました。作業は地道だったが、少しづつ空間がきれいになっていくのが分かり、達成感がありました。

白石島での体験を通して、伝統文化を守る難しさと、地域を支える人の思いの両方を知られると感じます。外から来た私たちが関わることで、ほんの少しでも島の未来に力を添えることができるのではないかと感じました。

(文章：藤井太陽)



以上